

対応」と題して国立保健医療科学院の健康危機管理研究部部長の金谷泰宏先生にお話しいただきました。2つ目の特別講演として政策の中心に居る内閣官房健康医療戦略室戦略推進補佐官である宮田俊男先生より「アベノミクス下の医療改革」と題して今後の我が国の医療技術の行方についてお話をいただきました。

また、シンポジウムも「感染防御対策」と「医療安全」という二つの分野で合計10演題を行わせていただきました。一般演題は皆様方のご協力により31演題集まり、全体で126名の参加をいただき活発な討論を行うことができました。

最後になりましたが、本学術集会に協賛いただきました各企業、ご参加いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

第17回熊本支部学術集会

学術集会会長：荒尾市民病院荒尾市病院事業管理者 大嶋壽海

2015年3月14日(土)、荒尾総合文化センターにて第17回熊本支部学術集会が開催され、420名の参加がありました。本学術集会のテーマは「地域完結型の医療マネジメントが目指すところ」と致しました。応募演題は106題(地域医療15題、チーム医療15題、業務改善・クリティカルパス15題、その他14題、ポスター47題)と多く白熱した討論がなされました。シンポジウムは県内の6地域を代表する職種の異なる6名から、テーマと同じ演題で講演後、討論に移りました。地域や職種が異なるため、熱心な討論が行われました。

特別講演は、大牟田市立病院の前理事長の中山顕児先生にテーマと同じ演題で講演をいただきました。今後の高齢化社会の各地域の人口変動、地域包括ケアシステムにおける地域完結型医療の展開には、hart to hartの連携が必要だと熱く講演されました。多数の参加、演題をいただき、学術集会は盛会の内に無事終了致しました。この学術集会が、地域医療の質の向上に多少なりとも寄与したのならうれしく思います。

第4回埼玉支部学術集会

学術集会会長：さいたま市立病院院長 窪地 淳

2015年3月15日(日)、埼玉県県民健康センターにおいて第4回埼玉支部学術集会を開催し、259名のご参加をいただきました。テーマを「医療安全管理を考える」とし、基調講演、特集、ランチョンセミナー、パネルディスカッション、一般演題(ポスター)の発表が行われました。

特集では、医療法改正に伴う医療事故調査制度につ

いて、厚生労働省医療安全推進室長の大坪寛子先生、日本医師会副会長の松原謙二先生にそれぞれのお立場からのご講演をお願いし、最新の情報を得ることができました。

今回から初めての試みとして行った一般演題(ポスター)には16題の演題が集まり、また、パネルディスカッションは「医療安全管理：現状と課題」と題し、4人の先生方にそれぞれのお立場から医療安全管理についての発表、討議をいただきました。

最後に、本学術集会の開催に当たりご協力をいただきました関係各位へ感謝申し上げます。

第9回兵庫支部学術集会

学術集会会長：北播磨総合医療センター病院長 横野浩一



会場風景

第9回兵庫支部学術集会は、北播磨総合医療センターが担当して、2015年3月15日(日)に小野市うるおい交流館エクラにおいて開催されました。

学術集会では、特別講演として、神戸大学経営学研究科教授の松尾貴巳先生より、『医療組織に合った管理会計手法の使い方』、聖隷浜松病院副院長兼総看護部長の勝原 裕美子先生より、『グローバルな視座から日本がめざすべき医療の質』、公益社団法人日本医師会常任理事の石川広己先生より、『地域包括ケアシステムと医療・介護情報連携』と題してご講演いただいたほか、ランチョンセミナーでは、獨協医科大学内分秘代謝内科講師の城島輝雄先生、神戸市立医療センター中央市民病院院長補佐兼薬剤部長の橋田 享先生、近畿大学医学部奈良病院整形外科・リウマチ科教授の宗圓 聰先生にそれぞれの専門分野でご講演いただきました。

一般演題では、「教育」、「チーム医療」、「医療安全」、「患者サービス」、「医療の質」、「地域医療連携」、「病院経営」、「医療情報」、「看護」のカテゴリーに68題ものエントリーをいただき、各地域、各職種の立場での取り組みについて熱心にご発表いただきました。

「新時代の病院の管理と運営のあり方」をメインテーマとし、職種を超えた情報交換の場として、県内から280名の皆様にご参加いただき、大変有意義な学術集会になったと思っております。ご参加の皆様、協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。